

## 授業指導案（例）

※本指導案（例）は、内閣官房拉致問題対策本部事務局が実施した「平成30年度拉致問題に関する教員等研修」において、心の支援課指導主事が作成したものです。

○対象学年は中学1年生～中学3年生とする。各中学校においていずれかの学年に位置づけて実施する。

※現高校生は未習の者が多いと考えられるため、各高校でもいずれかの学年に位置づけて実施する。

※小学生については、中学時に学習することをふまえ、各小学校で実施を研究する（小6道徳など）。

→「アニメ『めぐみ』の学校における活用促進について（指導上の参考資料）」（拉致対策本部）が参考になる。

### 【授業指導案（概略）Ⅰ】

- |   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | 単元名  | 「拉致問題」について考える  |
| 2 | 学年   | 中学1年生～中学3年生  |
| 3 | 授業   | 総合的な学習の時間（人権学習）  |
| 4 | 目標   | ○拉致問題に関心を持ち、理解を深める<br>○拉致問題を考えながら、人権についての理解を深める<br>○拉致問題解決のために自分ができることを考え、実践的行動に移す                                   |
| 5 | 指導計画 | 第1時 子どもの権利条約から学ぶ（50分）<br>第2時 アニメ「めぐみ」の視聴を通して考える（50分）<br>第3時 拉致問題の実態を学ぶ（50分）<br>※授業時間が十分確保できない場合は、ゴシック部分を中心に組み直して実施する |

#### 第1時

（参考資料）「人権教育指導資料集」（長野県教育委員会）p.49～53

ねらい	子どもの権利条約の内容を学ぶことで、人権についての理解を深める。グループワークを通して様々な見方・考え方があことに気づくとともに、自分にも他人にも大切な権利があることを理解する。	
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6人のグループをつくり、子どもの権利条約カードと模造紙を配付する。</li> <li>・各生徒の持ち物として、ノートまたはワークシートを準備する。</li> </ul>	
進め方	活動の流れ（学習内容・学習活動）	指導上の留意点
導入 （5分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国内外の子どもの問題（貧困・虐待・いじめなど）を知り、子どもには様々な権利があることに気づく。</li> <li>○子どもの権利条約の概要を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体例を挙げ、子どもにも様々な権利があることを伝える。</li> <li>○子どもの権利条約の概要について説明する。</li> </ul>
展開 （35分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループごと、子どもの権利条約カードを模造紙に貼って整理する。 <span style="float: right;">（25分）</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを順番に読み上げる。</li> <li>・特に大切にしたいカードを6つ選び順位をつける。</li> </ul> </li> <li>【例】 <ul style="list-style-type: none"> <li>① → ② → ③ → ④ → ⑤ ⑤</li> <li>① → ② ② → ③ ③ ③</li> </ul> </li> <li>○グループごとに発表し、全体共有する。 <span style="float: right;">（10分）</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順位づけの理由、話し合いで迷ったところについて発表する。</li> <li>・子どもの権利は4つの権利（生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利）に分類されることを知る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カード整理の手順を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1組カードを配り、まず自分の考えを持たせた上で話し合わせる方法もある。</li> <li>・順位づけは【例】のように柔軟にする。</li> </ul> </li> <li>○それぞれの権利の価値や、権利に対する様々な見方・考え方を共感し合えるように促す。</li> </ul>
まとめ （10分）	○本時の活動を通して感じたことを一人一人振り返り、ノートやワークシートにまとめる。	○各生徒が自分や他人に大切な権利があることを理解できたか確認し、認める。

第2時

ねらい	アニメ「めぐみ」を視聴し、めぐみさんが奪われてしまったものを通して、人権を奪う拉致問題について知る。	
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6人のグループをつくる。</li> <li>・アニメ「めぐみ」、めぐみさんが最後に目撃された場所の写真、ポスターなどを準備する。</li> <li>・各生徒の持ち物として、ノートまたはワークシートを準備する。</li> </ul>	
進め方	活動の流れ（学習内容・学習活動）	指導上の留意点
導入 (5分)	<p>○グループごと、昨日の帰宅時の様子を話し合う。 [予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日、部活でいいプレーできたな」「今日の授業、ちょっと難しかったな」と友だちと話しながら帰宅した。</li> <li>・「夕飯何かな」「早くゲームしたいな」と帰宅後の過ごし方について考えながら帰宅した。</li> </ul> <p>○めぐみさんが最後に目撃された場所の写真を見て、自分たちと同じ何の変哲もない日常の中で「拉致」が起きたことに気づく。</p>  <div data-bbox="336 958 1423 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1977年（昭和52年）新潟市の海岸近くに住んでいた横田めぐみさん（当時中学1年生）は、普通の人たちと同じようにご両親や2人の弟さん達と仲良く生活していましたが、11月15日の夕方、クラブ活動のバドミントンの練習を終えて下校する途中に突然、姿を消してしまいました。 [アニメ「めぐみ」とは（拉致対策本部）より]</p> </div>	<p>○日常では気づきにくい大切な思いや行動（権利）が一人一人にあることを、グループで共有できるように促す。 [例]「そうだよね、今日のこと振り返ったり、家で何しようかなと考えたりしながら帰るよね」</p> <p>○めぐみさんの拉致について簡単に説明するとともに、アニメ「めぐみ」を視聴することを伝える。</p>
展開 (40分)	<p>○アニメ「めぐみ」を視聴する。 (25分)</p> <p>○次の観点で、感想をノートやワークシートにまとめる。 (7分)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①めぐみさんはどんな気持ちだったのだろうか。 今、めぐみさんはどんな気持ちでいるのだろうか。</li> <li>②家族はどんな気持ちだったのだろうか。 今、家族はどんな気持ちでいるのだろうか。</li> <li>③めぐみさんが奪われたもの（人権）は何だろうか。</li> </ol> <p>○感想をグループで発表し合う。 (8分)</p>	<p>○視聴後に感想を述べ合うことを予告する。</p> <p>○感想のまとめや発表方法は、生徒の様子や授業時間などを考慮して工夫する。また、各観点については次の点に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分に置き換えて考えさせるなど、共感的理解を促す。</li> <li>②家族愛について考えさせる。</li> <li>③前時の内容（子どもの権利条約）を活かす。</li> </ol>
まとめ (5分)	<p>○本時の活動を通して感じたことを、ノートやワークシートにまとめる。 [予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「めぐみさんは、突然自由を奪われて悲しかったはず」「一日も早く家族と会えるとよい」</li> <li>・「拉致問題の新聞記事やニュースに注目したい」「拉致問題についてもっと調べたい」</li> </ul> <p>○拉致問題の解決に向けて生徒自身ができそうなことを考える。</p>	<p>○各生徒が感じたことを尊重し、認める。</p> <p>○具体例や考える材料を提示する。 [例] ・めぐみさんへの手紙を書く。 ・めぐみさんの家族への手紙を書く。 ・ブルーリボンやポスターを掲示し、拉致されたまま未だ帰国できない方々がいることを伝える。 ・ポスターを提示し、作文コンクールの応募を促す。</p>

第3時

ねらい	拉致問題の実態を学ぶ。拉致問題解決のために自分ができることを考え、実践的行動に移す。	
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よくわかる拉致問題」(内閣官房 拉致問題対策本部HP)をスライド資料または印刷資料として(以下、※「資料」)準備する。</li> <li>・各生徒の持ち物として、ノートまたはワークシート(できれば作文コンクール原稿用紙も)を準備する。</li> </ul>	
進め方	活動の流れ(学習内容・学習活動)	指導上の留意点
導入 (5分)	<p>○「資料」を使って、前時の復習をする。</p> <p>※(1)拉致された13歳の少女 横田めぐみさん(前編)</p>	<p>○前時に生徒から出された感想を織り交ぜながら、めぐみさんの拉致について振り返る時間を取る。</p>
展開 (35分)	<p>○拉致問題解決のために自分ができることは何かを考える。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず自分の考えをノートまたはワークシートにまとめる。</li> <li>・次に、隣同士で意見交換をする。</li> </ul>	<p>○拉致問題について「関心を持ちたい」「実態を知りたい」といった生徒の反応があれば、取り上げて紹介する。</p>
	<p>○「資料」を使って、拉致問題の実態を学ぶ。(20分)</p> <p>※(2)拉致された13歳の少女 横田めぐみさん(後編)</p> <p>(3)拉致された人は何人いるの?</p> <p>(4)北朝鮮とは? なぜ拉致をしたの?</p> <p>(5)北朝鮮による日本人拉致問題とは?</p> <p>(6)解決のためにできることは?</p>	<p>○拉致問題対策本部HP上の他の資料で補足をしてよいが、公式資料の範囲内で説明をする。</p>
	<p>○再度、拉致問題解決のために自分ができることを考え、全体で発表し合う。(5分)</p>	<p>○拉致問題について「関心を持ちたい」「実態を知りたい」といった形で全体共有ができるように工夫する。</p> <p>○何か実践的行動に移すことが大切であると触れ、作文コンクールについて説明する。</p>
まとめ (10分)	<p>○作文コンクールの骨子をノートまたはワークシートにまとめる。</p>	<p>○作文は宿題とし、応募に関する注意事項を伝える。</p> <p>○拉致問題について、さらに実態を知るためには、拉致問題対策本部HPが参考になることを伝える。</p> <p>また、インターネットによる情報収集にはリテラシーやモラルなどに注意を払うよう伝える。</p>



【授業展開案（概略）Ⅱ】

- 1 単元名 「拉致問題」について考える  
 2 学年 中学1年生～中学3年生  
 3 授業 総合的な学習の時間（人権学習）または特別活動（学級活動）  
 ※中学3年生は、社会（公民的分野または歴史的分野）で発展的内容として扱える  
 4 目標 ○拉致問題に関心を持ち、理解を深める  
 ○拉致問題を考えながら、人権についての理解を深める  
 ○拉致問題解決のために自分ができることを考え、実践的行動に移す  
 5 指導計画 アニメ「めぐみ」の視聴を通して考える（50分）  
【授業指導案（概略）Ⅰ】の第2時分のみを行う

【授業展開案（概略）Ⅲ】

- 1 単元名 「拉致問題」について考える  
 2 学年 中学1年生～中学3年生  
 3 授業 特別活動（学級活動）  
 4 目標 ○拉致問題に関心を持ち、理解を深める  
 ○拉致問題を考えながら、人権についての理解を深める  
 ○拉致問題解決のために自分ができることを考え、実践的行動に移す  
 5 指導計画 短学活（10分）×6回で実施する  
 北朝鮮人権侵害問題啓発週間や各学校で定めた人権教育週間で実施する

進め方	活動の流れ（学習内容・学習活動）	指導上の留意点
第1回 （10分） 金曜日	○次週は人権週間であることを知る。 ○子どもの権利条約の概要を学ぶ。	○特に拉致問題について扱うことを伝える。 ○まず、子どもの権利条約の概要を説明する。
第2回 （10分） 月曜日	○隣同士でペアになり、子どもの権利条約カードに順位をつける。	○カード整理の手順を工夫する。 ・扱うカードの数は精選する。 ・順位づけは柔軟にする。
第3回 （10分） 火曜日	○アニメ「めぐみ」（前半）を視聴する。	○視聴後（第5回）に感想を述べ合うことを予告する。
第4回 （10分） 水曜日	○アニメ「めぐみ」（後半）を視聴する。	○全編25分なので、時間のやりくりは工夫する。
第5回 （10分） 木曜日	○以下の観点で、感想を発表する。 ①めぐみさんが奪われたもの（人権） ②めぐみさんや家族の気持ち	○第2回の学習内容を活かして、めぐみさんが奪われた人権について考える。また、自分に置き換えて共感的理解をさせる。
第6回 （10分） 金曜日	○自分にできることは何かを考える。 ○作文コンクールの骨子を考える。	○拉致問題について「関心を持ちたい」「実態を知りたい」といった反応を尊重する。 ○作文は宿題とし、応募に関する注意事項を伝える。

※学校や生徒の実情によって、【授業展開案（概略）Ⅰ】～【授業展開案（概略）Ⅲ】のいずれかを選択、応用して実施する。